



## 教職員評価は、「支配の道具」?

### 県教委 評価シート未提出者を調査

本格実施初年度に混乱!  
県教委教職員課 課長補佐が職権濫用か???

#### 教職員評価本格実施

##### 制度の目的:「職場の活性化」

##### 「教職員の資質と意欲の向上」

平成24年度から教職員評価が、本格実施となっています。評価シート提出を受けて、各学校では校長による評価のための二次面接が始まっていることでしょうか。「職場の活性化」「教職員の資質と意欲の向上」というこの制度の目的がどれほど達成されるのか、注目されるところです。

##### 「評価シート未提出者を報告せよ」

1月17日、知多市内の小中学校に「評価シートを出さない者を報告せよ」という内容のメールが流されました。それを受け、教頭が慌てて請求して回るということが起きたようです。

調べてみると、発信元は知多教育事務所竹内淳管理主事で、それを受け

【知多教育事務所発 知多市教委宛メール】  
……(略)……1月15日までに、評価シートを出していない教諭を把握したいと思ひます。教職員評価シート未提出者の氏名、学校名、再任用を希望しているかどうかをメールでお知らせください。(単にルーズで忘れたものを除くが、未だに出していないものは報告する)……(略)……  
知多教育事務所 管理主事 竹内 淳

【知多市教委発 知多市内小中学校宛メール】  
……(略)……事務所から以下の内容の調査がまいりました。  
……(略)……[未提出者の氏名、再任用を希望しているかどうか] 提出忘れではなく、提出を拒否している場合です。……(略)……  
知多市教育委員会 指導主事 加藤裕美

① 県教委の「正式な業務」としての問題点があります。  
それをしているが、そこには重大な問題点があります。  
② 公的発番のないメールという安易な方法で、各教育事務所から市町村教委へと伝達されるうちに、各主事ら  
③ 教職員評価と全く関わりのない再任用の希望の有無が同時に調べられており、「未提出者は再任用しない」とほめかす恫喝的利益誘導を伴っている。  
「教員を指示に従わせ支配する道具になる」という、この制度の本質がここに透けて見えます。

#### 県教委教職員課 課長補佐が「単なる個人的調査」?!

##### さらなる個人的調査?!

それにも関わらず、締め切りまでに出さない者を「調査」するということは、提出を強制させようという意図から出たものに他なりません。

それにも関わらず、締め切りまでに出さない者を「調査」するという

それをしているが、そこには重大な問題点があります。

それをしているが、そこには重大な問題点があります。

それをしているが、そこには重大な問題点があります。

それをしているが、そこには重大な問題点があります。

それをしているが、そこには重大な問題点があります。

それをしているが、そこには重大な問題点があります。

それをしているが、そこには重大な問題点があります。

それをしているが、そこには重大な問題点があります。

それをしているが、そこには重大な問題点があります。

それをしているが、そこには重大な問題点があります。

それをしているが、そこには重大な問題点があります。

それをしているが、そこには重大な問題点があります。

それをしているが、そこには重大な問題点があります。

それをしているが、そこには重大な問題点があります。

それをしているが、そこには重大な問題点があります。

それをしているが、そこには重大な問題点があります。

それをしているが、そこには重大な問題点があります。

それをしているが、そこには重大な問題点があります。

それをしているが、そこには重大な問題点があります。

それをしているが、そこには重大な問題点があります。

それをしているが、そこには重大な問題点があります。

### 北から南から ~支部だより~

今年度も6月と12月の2回、全員郵送を実施することができた。古参の組合員に尋ねると、1992年の結成当時から実施しているという。

全員郵送後には「毎回、隅から隅まで読み通しますよ。」「学校訪問のあり方は、あの新聞に書いてある通りだと思う。」など、いろいろな声が寄せられる。中には、「知多の教員って、3000名以上もいるんでしょ。いったいどうやって作業をするのですか。」とか「誤字があるので印刷前に見せてくださればチェックしますよ。」などという温かい質問や声かけまである。多くの人たちの重要な機関紙になっていることを実感する。

ある日、勤務校の職員会で管理職から「仕事を効率よくやり、退勤時刻を早くしましょう。」という発言があった。私は、「それをしたくてもできないのでみんなが困っています。仕事を減らすことを考えることが大切なのだと思います。」という発言をした。すると翌日になって、同僚から、「先生、ありがとうございます。あの発言、とても嬉しかったです。」「言いにくいことを言ってくれてありがとう。」などの声をもらった。私にとっては、別に言いにくいことでも何でもなかった。

勤務時間内にとっても処理しきれない仕事量や過労死レベルの超過労働時間放つてはおけないという思いからだ。労働条件を当たり前にはいけない。こんな当たり前のことが言いにくいことになっているのが、今の教育現場の実態だ。知教労のように言うべきことをきちんと発言できる組合に所属していることに大きな誇りを感じるこの頃である。(E)



調査ではなく、吉田氏が言うように「個人的」な調査だとすれば、課長補佐という職権の濫用である。  
② 公的発番のないメールという安易な方法で、各教育事務所から市町村教委へと伝達されるうちに、各主事ら  
③ 教職員評価と全く関わりのない再任用の希望の有無が同時に調べられており、「未提出者は再任用しない」とほめかす恫喝的利益誘導を伴っている。  
「教員を指示に従わせ支配する道具になる」という、この制度の本質がここに透けて見えます。

#### やはり矛盾を内包!! 教職員評価制度再考と事態の責任追及を!

一時期こうした業績評価制度を採用した一般企業が、相次いで廃止しているのは、この方法では業績が上がらず、かえって問題が起きたからです。機械や材料を対象とした仕事ならいざ知らず、人間を相手にした仕事の業績は単純には計れません。教育という長い時間の必要な営みでは特にそうです。

本格実施初年度のこの事件を通して、教職員評価制度の問題点を再考する必要があるでしょう。知教労は愛教労と結んで、ア吉田課長補佐らの責任追及、「イ」調査の撤回、ウ評価シート未提出と再任用選考との無関係性を周知、などを求めています。



(東北の旅から①) 毎年十二月に行われる「愛教労平和と歴史の旅」に久しぶりに参加した。今回は、福島と宮城の震災を受けた現地を巡る二泊三日のフィールドワーク。参加者は三十三人の大所帯▼最初、福島高教組の松本さんによる映像を見ながらの説明を受けた。会場の福島県教育会館の放射線はその時0.4μシーベルト(高い!)その中でみんな普通に生活せざるを得ないのだ。旅の始まりのウキウキ感も吹き飛んだ▼松本さんは双葉高校に勤務。ご自身も原発のある双葉町に住んでいて、震災時は情報も入らず、あたふたと飼っていた犬も置いたまま避難した。家も田畑も溪流釣りができた美しい川も全て汚染され、未だに帰る目途は立っていない▼学校や地域の甚大な被害の状況の説明の最後に、松本さんは東電と国への怒りを込めて「不条理にも望まない生き方を強いられた、人生を狂わされた人々の絶望と憤りは計り知れない。再び悲惨な原発事故を絶対に繰り返さないために、脱原発運動を全国各地から発信し、大きく世界的な運動となることを願う」とまとめられた▼復興には程遠い現地の人々の声を聞いて、最近のマスコミや政府の情報の少なさに、わざと知らせないのではないかと改めて怒りを覚えた。そして私たちは何ができるのかと思う。それは、このような政府の姿勢を正し、この震災の教訓を私たち一人一人が生かすことではないだろうか。もう二度と原発事故を起こさないために原発をなくすこと、地震や津波による災害を防ぐ対策を行政に働きかけること等々。次回は二日目の宮城の様子を報告したい。(H)

# データで見る教員の実態 第34回 『+14.3ポイント, +32.4ポイント』

# 知ってるつもい・Q&A 俳優さんにも労働組合？

安倍内閣は教育に力を入れていると言っていますが、早速少人数学級推進を停止してしまいました。報道によると「少人数学級を導入した秋田県は、全国学力調査で成績上位を維持しているが、逆に学力との相関関係はないとする研究もある。」とのこと。研究ですから、いろいろな意見があるのは当たり前です。

しかし、これははっきりと決着がついています。今回はじめに関連する数値だけ取り上げます。国立教育政策研究所が中学2年生で33人以下学級を導入した地域を対象に、学級規模と人間関係によるトラブルの解決状況を調査しました。

それによると、実施前年は〈2～4学級・学級平均36人〉の中学校でのトラブル解決率は64.6%でした。しかし、実施した年は〈2～4学級・学級平均29.3人〉では解決率が78.9%と14.3ポイントも上がりました。

また、〈2～4学級規模・学級平均37人〉を〈5～6学級規模・学級平均28.5人〉にしたところトラブルの解決率が59.6%から92.0%に32.4ポイントも向上しました。

この結果から教育政策研究所では「少人数学級編制を行うことで解決率が上がることもともに、学級数が多い学校ほど解決率が上がることが示された。」と分析しています。(それ以上学級数が増えても効果はみられないとのことです。)

残念ながら今回の資料には小学校の分析が載っていませんでした。多くの先生から見ると、33人学級とほうらやましい限りでしょう。担任をしていると当たり前だと思っていることでも、調査により結果が示されると説得力を持ちます。いじめ問題を減らすために、是非自民党や財務省の方々に見てもらいたいものです。

**Q** 先月のプロ野球選手の労働組合の記事をととても興味深く読みました。ふと、思ったのですが、俳優とかタレントさんたちにも労働組合があるのでしょうか。

**A** 俳優やタレント、いわゆる芸能人の労働組合もあります。日本俳優連合がそれにあたります。日本プロ野球選手会同様、この団体も相互扶助と労働組合という二つの性格をもっています。

俳優や声優等の職能団体の結成は、1960年代から進められました。俳優が待遇改善を求めて団結しようとしているなどということが放送局側に知れたら、その動きを潰すための攻撃をされることが危惧されたため、会議は常に秘密裡に行い、会議の場所に複数の俳優が連れ立って向かうことをしないなど、大変な苦勞を重ねて組織作りが行われたという記録が残っています。

1971年2月8日に、日本俳優連合が結成されました。現在の組合員は、およそ2700人にもものぼり、権利処理法制委員会、活動条件向上委員会、広報委員会等、わたしたちの組合同様の組織をもっています。具体的には、NHK、民間放送、製作会社などとの間で出演条件や安全対策等を行い、団体協約を締結するなどしています。

理事長を務めるのは、おなじみの西田敏行さん、副理事長は、声優の大平透さんです。森重久弥さんや森光子さんなども、長年にわたり中心になって活動されてきました。



## 教科書会社による指導内容の取り扱い例

私たちは、日頃の忙しさもあり、自分たちの地区で採択されていない教科書には、あまり目を向けるゆとりがないのではないのでしょうか。今回は、算数の教科書会社による単元の取り扱いの違いを少しですが見てみたいと思います。

小学校算数教科書について 啓林館と東京書籍との扱いの違い(一部)

学年・単元	啓林館	東京書籍	児童の理解の方法と教材の配列・あるべき姿
3年・大きな数	大きな数を数直線で表し、数の配列や大小の比較に慣れていない状況で、練習問題として、7万～14万の数の配列を出題している。(一万の位から十万の位に上がる部分を出題)	一番小さい目盛りは何ですか。とか、数直線を使って、一億の導入を図っている。また、練習問題としても、簡単な問題から出題し、無理のない出題となっている。	大きな数自体が初めての事、また、それを数直線で表すことも初めての事なので、いきなり難易度の高い出題では、子どもには抵抗感が生じる。学習進度も、子どもの定着の事を十分に配慮して、構成されるべきである。
4年・計算のきまり 計算の工夫	練習問題 ①72+95+5 ②43+82+57 ③25×16 ④28×25 ⑤50×24 ⑥98×5 ⑦102×35 ⑧999×9	練習問題 ①29+17+3 ②88+45+12 ③67+7.6+2.4 ④16×25×4 ⑤42×8×125 ⑥4×73×25 ⑦5×102 ⑧7×99	単元自体かなり無理があるところである。結合法則・交換法則・分配法則を使って、工夫してやりなさい。児童はこの、工夫より、筆算でやった方が早く間違いなくやれると思う。ここで、啓林館のような25×16=25×4×4とみて、25×4=100から、400を出させようとしている。無理がある。東京書籍は、予め25×4が表示してある。また、東京書籍の方が簡単な問題の出題である。
4年・大きな数の計算	3けた×3けたの発展問題として、3500×2700、3500×270を筆算でというのがあり、練習問題で、36×24=864を使って、答えを求めよ。①3600×2400 ②36万×24 ③36万×24万 ④36億×24万	3けた×3けたの発展問題として、5400×320の筆算のしかたを工夫しようの記述がある。その後、次のような練習問題がある。①4800×70 ②3500×80 ③260×4000 ④690×6700 ⑤1400×250 ⑥370×62	3けた×3けたの学習を終えたばかり、それよりも、大きな数のかけ算である。ここは、筆算で学習が続いているので、ひとまず、筆算で大きな数の計算を狙うのが本筋であると思う。36万×24万よりも、東京書籍のような、練習問題を多くこなすことの方が、有用であると思う。実際に、0がつくかけ算問題が、これからも多く出現する。
5年下P36 見積もりを使って (サブタイトル さしひいて)	啓林館のみ 問題:野球のバットとボールを買おうと思います。みらいさんは、バットとボールが2000円で買えるかどうかを、次のように見積もって考えました。みらいさんの考え方を説明しましょう。 バット・・・1260円 ポール・・・780円  みらい:バットは1000円より260円高い。ボールは1000円より220円安い。さしひいて、見積もると買えます。		⇒これに関して、東京書籍と教育出版にはない。教科書会社に何ったところ、学習指導要領に準拠していれば良いので、いろいろですよ。ということであった。私は、左記の問題は面白い考えだとは思いますが、暗算が苦手の子にとって大変、考え方も大変。単純に計算すれば・・・という声が聞こえてきます。この部分がなければ他の所で教材の充実が図れるのに。

※現在、現場の先生には、教科書展示会で、次年度の教科書を見て、意見を用紙に記入することはできるものの、十分とは言えない。他の出版会社の教科書との比較をし、教師自身の教材観を高めることもできるので、展示会だけでなく、各学校を巡回させて、それぞれの意見を聞いてもらいたいものだ。